

〔運步色葉集二〕惱ナウ

〔倭訓栞前編十九〕なやむ 日本紀に懊惱、又痛又難、又舉力を訓せり、萎病の義なるべし、新撰字鏡

に謬もよめり、なやますともいふ、人にいふ也、ます、反む也、神代紀に逼惱、又危困をよめり、

〔古今和歌集序〕をの、小町は、いにしへのそとをりひめの流なり、あはれなるやうにてつよから

ず、いはよきをうなのなやめる所あるにたり、

〔源氏物語十〕御なやみに、おどろきて、人々ちかかうまゐりてしげうまがへば、われにもあらでぬり

ごめにおしいれられておはす、御ぞどもかくしもたる人のこ、ちななどもいとむつかし、宮壺

はものをいとわびしとおほしけるに御氣あがりて、なほなやましようせさせ給、

〔吾妻鏡二十七〕寛喜二年六月十八日、戊刻修理亮平朝臣時氏逝去、二十去四月自京都下向、不經幾

日月病惱、被致内外祈請、雖加數箇醫療、皆以失其驗、去嘉祿三年六月十八日、次男時實卒、隔四箇

年、今日又有此事、已兄弟御早世、愁傷之至、無取驗、及寅刻葬于大慈寺傍山麓云云、

〔倭名類聚抄〕痛 釋名云、痛音洞、和名伊太之、通也、通在膚脈中也、

〔箋注倭名類聚抄〕昌平本、下總本無訓字、醫心方同訓、中所引文原書同、說文、痛病也、

〔倭訓栞前編三〕いたむ 疼痛をいふ、息をたむるの義成べし、神代紀に傷、又哀傷、又悽然をよみ、靈

異記に軫をよみ、新撰字鏡に快又挹をよめり、

〔先代舊事本紀天神〕天神御祖、詔授天璽瑞寶十種、謂羸都鏡一、邊都鏡一、八握劔一、生玉一、死反玉一、

足玉一、道反玉一、蛇比禮一、蜂比禮一、品物比禮一是也、天神御祖教詔曰、若有痛處者、令茲十寶謂一

二三四五六七八九十、而布瑠部由良由良止布瑠部、如此爲之者、死人反生矣、是則所謂布瑠之言本

矣、

〔拾遺和歌集七〕つくりみ

大伴黑主